

# 森林管理署長等が語る！

上越森林管理署長 田中 直哉

## 1 管内概要



上越森林管理署は、新潟県の上越市、妙高市、糸魚川3市の国有林約3.6万haを管理経営しています。ブナを主体とする天然林が約97%を占め、保安林率が96%で山地災害の防止、水源の涵養等の重要な役割を果たしています。

管内には、糸魚川・静岡構造線が存在し、地質的に日本有数の地すべり

り地帯であると同時に、豪雪地帯でもあります。このため、素材生産量は少ないですが、治山事業量は関東森林管理局最大規模となっています。

良好な自然環境に恵まれ、日本百名山の妙高山、火打山等をはじめ、活火山の焼山、新潟県最高峰の小蓮華山これんげ等多くの山岳がそびえ、登山、ハイキング等の森林レクリエーションに活用されています。

また、豪雪を活かした国内有数のスキーエリアであり、国有林内に7ヶ所のスキー場があります。近年はインバウンドの増加が顕著です。

なお、上越市・高田城址公園の桜は、

「日本三大夜桜」に数えられており、多くの観光客で賑わいます。上越森林管理署の前身である組織改正前の高田営林署は城の敷地内にありました。



高田城址公園の桜

## 2 地域の安全・安心の確保のための治山事業

山地災害から地域住民の生命・財産を保全し、豊かな森林づくりを推進するため、谷止工等の溪間工、土留工等の山腹工、地すべり防止のための集水井工やアンカー工等の様々

な治山事業を実施していますが、ここでは、小滝川源流域の大規模崩壊地における復旧治山事業について紹介します。

令和元年6月、新潟県糸魚川市を流れる小滝川上流の国有林において、大規模な山腹崩壊が発生し、日本海まで白濁水が流出しました。糸魚川市では農業用水の取水を停止したほか、水力発電所や漁業等の様々な産業や観光に大きな影響を与えました。



日本海に流出した白濁水  
(出典：国土交通省松本砂防事務所)

崩壊地は、非常に急峻で地上からアクセスができないことから、ヘリコプターを用いて、

「航空実播工」、「袋型石詰工」、「航空コア緑化工」の3種の工種を実施しました。

「航空実播工」とは、ヘリコプターにより種子や肥料を散布することにより、早期の緑化を図る工法です。崩壊地周辺が中部山岳国立公園であることから、崩壊地下流域に自生しているススキやヨモギなど11種類の種子を現地から採取しました。「航空コア緑化工」では、同じく崩壊地下流域に自生しているヤナギの枝を採取し投下しました。外来植物による生態系破壊防止と早期の緑化の両立を実現し、地域の環境に配慮した対策を進めました。

さらに、不安定土砂が流出する危険性があったため、石詰の袋を地表に筋状に並べる「袋型石詰工」を実施し、土砂の流出防止対策としました。

小滝川上流の崩壊地（施工前）



地域性種苗による植生の回復（施工後）



- ① ヘリコプターによる「航空実播工」
- ② ヤナギの枝を投下する「航空コア緑化工」
- ③ 「袋型石詰筋工」による土砂流出防止

大規模崩壊から約5年が経過し、継続的に復旧治山事業を実施しましたが、植生の回復と下流への土砂流出が停止したことが確認され、河川の白濁も収まり、これまでの対策が効果を発揮しています。糸魚川市からは継続的な復旧治山事業の実施の要望があるとともに、感謝の声も頂きました。

### 3 貴重で豊かな自然環境の保全

管内には、妙高戸隠連山国立公園、中部山岳国立公園があるなど、優れた自然環境を有する国有林野が数多くあります。一部を「犬ヶ岳ホンシャクナゲ希少<sup>れんげ</sup>個体群保護林」、「蓮華ライチョウ希少個体群保護林」、「火打山周辺ライチョウ希少個体群保護林」に設定して、保護・保全に取り組んでいます。

また、希少猛禽類のイヌワシの生息も確認されており、繁殖率を高めるため、営巣地周辺のカラマツ林に狩り場を創出するための森林施業の検討を進めています。



小蓮華山（新潟県最高峰 2,766m）



火打山と「天狗池」

このうち火打山は、日本最北限のライチョウの生息地です。このため、妙高市や環境省等と連携し、ライチョウの採食地に侵入しているイネ科植物を除去して、稜線<sup>りょうせん</sup>に広がるハイマツやエサとなるコケモモ等の高山植物を保護し、生息地の保護・回復に取り組んでいます。



イネ科植物の除去作業



日本最北限のライチョウ（火打山）

さらに、「国民の森林」を管理経営していることを職員に実感してもらうため、山岳パトロールを強化して、登山道の安全確保、標識の更新、登山客へのマナー啓発、野生動植物の生息・生育状況の確認等を行いました。

妙高山、焼山、小蓮華山等で実施し、登山客から、「素晴らしい仕事をされていますね。かっこいい！！」との声もかけられ、一緒に記念撮影の申し込みもありました。若手職員にとっても励みになったと思います。



登山道で頭上の危険箇所を明示

#### 4 信越トレイル

新潟・長野県境の関田山脈には、NPO法人信越トレイルクラブにより、全国屈指のロングトレイル・「信越トレイル」が整備されています。利用者の目的や体力に応じて、「歩くこと」自体を楽しみながら、<sup>まだらお</sup>斑尾高原、ブナ林、里山、苗場山と移り変わる風景や自然を四季の変化に応じて、そのすばらしさを堪能できます。

毎年、信越トレイルクラブ、中部森林管理局と合同パトロールを実施しています。

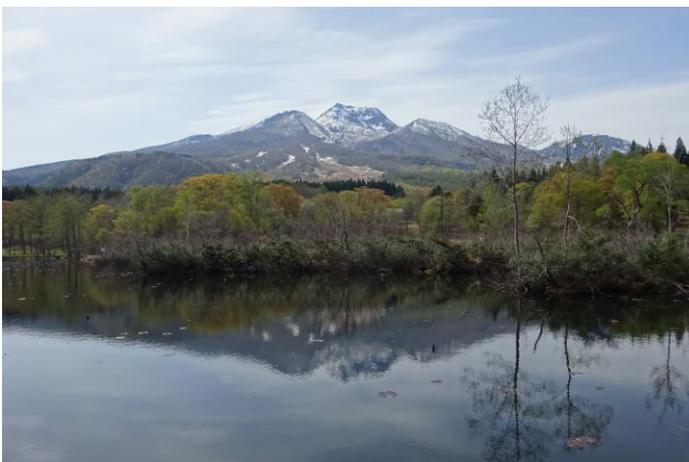
今後も、利用者の安全対策、アクセスの向上、国有林や地域資源を活かした持続的な地域振興等について、地域の関係者とともに貢献していきたいと考えます。

小職も昨年、全線 110km を完全踏破しました。トレッキングや自然が好きな方は、是非、チャレンジしてみてください。



信越トレイルの合同パトロール（関田峠）

#### 5 これから妙高エリアは熱い！！



妙高山と「いもり池」

妙高エリアはコロナ禍以前から、「シャンパンスノー」と呼ばれる雪質を誇り、日本の冬季が夏休みのオーストラリア人を中心に人気です。その時期、スキー場周辺は、外国になります。

東京から北陸新幹線で約2時間半、車でも約3時間、北陸新幹線の福井延伸で、これから北陸地方から

の集客も見込まれます。

この好立地に目を付けたシンガポールの不動産投資ファンド、ペイシャンス・キャピタル・グループ(PCG)が、昨年11月、国有林の貸付地もある妙高杉ノ原スキー場周辺350haの土地や宿泊施設を取得しました。今後10年以内に2,000億円超を投資し、ホテル、住宅、商業施設を整備し、最終的には北米で最大規模のスノーリゾートであるウイスラーのようにする構想と聞いています。

このため、地域住民は「第2のニセコ」になるのかと、期待と不安で色めきだっています。

今も、外国人の民宿経営者から、国有林を活用した様々なレクリエーションの提案がありますが、前例のないことが多く、対応に苦慮することがあります。

今後も、妙高エリアの開発動向には、よく注視していくべきと考えます。



妙高市の花・シラネアオイ